

研究交流

1 研究協力

日中韓3カ国の農業政策研究所による合同セミナー

農林水産政策研究所は、諸外国との研究交流の一環として、中国農業科学院農業経済研究所（CAAS）及び韓国農村経済研究院（KREI）と連携して、3研究所で「北東アジア農政研究フォーラム」を設立し、研究協力を行うことについて基本合意を行った。本合意に基づく設立記念式典と第1回セミナーが、平成15年10月28日に韓国ソウルで開催された。

（1）北東アジア農政研究フォーラム（Forum for Agricultural Policy Research in North East Asia）の概要

次の事業を行うこととしている。

- ・ 学術資料、出版物及び情報の相互交換
- ・ 本フォーラムのホームページの開設及び管理・運営
- ・ 関連研究会、セミナー等の共同開催
- ・ 共通関心分野・課題の発掘及び研究推進

このうちホームページは、当面 KREI が中心となって開設され、3研究所にリンクが張られることになった（<http://www.fanea.org/> 英・日・中・韓の4か国語）。

また、セミナーは第2回（2004年）が中国、第3回（2005年）が日本で開催される予定である。

（2）第1回セミナーの概要

参加者は、日本から、高野駐韓国日本大使（式典のみ）、西尾農林水産政策研究所所長ほか研究員5名（會田・香月・小野・小林・千葉）、中国からチェン・クミン CAAS 所長ほか10名、韓国からイ・ジョンファン KREI 院長ほか110名、合計約130名にのぼった。設立記念式典に続き、「北東アジア諸国の農業協力——その機会と展望——」を統一テーマとして、3つのセッションで日中韓3カ国が報告・コメント・討論を行った。各セッションの報告テーマと報告者等は以下の通りである。

第1セッション「北東アジアにおける農業及び農産物貿易の構造の現状と展望」

座長：西尾健（農林水産政策研究所）

第1報告「日中韓の農業構造：地域的農業協力の可能性」

オ・ミョングン（KREI）

第2報告「日中韓の農業経済学の協力の選択：農産物流通機構の革新」

呉秀媛（ウ・シウウェン）（中国吉林省農村経済情報センター）

第3報告「日中韓野菜貿易の現状と展望」

小林茂典（農林水産政策研究所）

日本側コメンテーター：香月敏孝（農林水産政策研究所）

第2セッション「WTO・ODA（ドーハ開発アジェンダ）以後の北東アジア農業の展望」

座長：ホ・ギルヘン（KREI）

第1報告「DDA後の中国の農産物貿易」

劉小和（リウ・シャオヘ）（CAAS）

第2報告「DDA後の日本農業の見通し——2000年農業センサスによる現状と傾向——」

小野智昭（農林水産政策研究所）

第3報告「DDA後の韓国農業の見通し——農産物市場開放が韓国農村経済に及ぼす影響——」

ソ・ジンキョ（KREI）

日本側コメンテーター：會田陽久（農林水産政策研究所）

第3セッション「北東アジアにおける農政研究の協力の強化方策」

座長：銭克明（チェン・クミン）（CAAS）

第1報告「中国・韓国・日本間の農業経済協力研究の方針」

薛桂霞（シュー・グイシャ）（CAAS）

第2報告「農林水産政策研究所の研究協力の概要」

千葉修（農林水産政策研究所）

第3報告「北東アジアにおける農業研究協力の必要性和その内容」

イ・ドンピル（KREI）

2 駐村研究員

駐村研究員制度は、当所の研究機構の一環として、当所創立直後の昭和22年度に創設された。以来、諸般の事情の変化に伴い、昭和43年度及び59年度に大きな運営上の改善を図りつつ現在に至っている。

駐村研究員は、農業及び農村に関し豊富な知識を有する地方在住者であって、当所研究員から推薦された候補者の中から選定され、任命される。任期は1年（再任は可）で、駐村研究員ごとに指名される当所の連絡担当研究員と緊密に連絡をとりながら委嘱事項について調査研究を進めることとされている。

具体的な委嘱事項は駐村研究員ごとに異なっており、その調査研究活動も「地域農業及び農村に関する情勢報告」等の調査研究報告書の提出や当所研究員の現地調査への参加・協力等それぞれの場合で異なるが、駐村研究員の活動は、農村現地における生の情報の収集・整理を主眼としており、その点で当所の調査研究を補完する重要な役割を担っている。

駐村研究員の研究成果は、駐村研究員会議での報告や『農林水産政策研究所レビュー』への投稿として直接に、あるいは研究員の論文、ノートの取りまとめ、特別研究の調査報告書等を通じて迂回的に発表される。

平成16年1月30日には、第24回駐村研究員会議を開催した。テーマは「農業法人経営をめぐる——地域との関係を踏まえて——」で、梶川耕治、片山元治、糸賀盛人、西田純一の4名の駐村研究員による報告が行われ、活発な意見交換が行われた。